

短期大学卒業生の学習経験と初期キャリア

伊藤, 友子
熊本学園大学

安部, 恵美子
長崎短期大学

松永, 一臣
長崎短期大学

稲永, 由紀
筑波大学

他

<https://hdl.handle.net/2324/10668>

出版情報：日本教育社会学会大会発表要旨集録. 58, pp.337-342, 2006-09-22. 日本教育社会学会
バージョン：
権利関係：日本教育社会学会

短期大学卒業生の学習経験と初期キャリア

○伊藤友子（熊本学園大学） ○安部恵美子（長崎短期大学） ○松永一臣（長崎短期大学）
 稲永由紀（筑波大学） 吉本圭一（九州大学）

1. 研究の課題と方法

1-1. 研究の課題

現在、日本の高等教育機関においては、「少子化」「ユニバーサル化」の進展の中で、様々な教育改革が展開している。特に、従来から、主に女子の短期教育機関として約半世紀の歴史と実績を誇ってきた「短期大学」は、女性の「四大志向」や「共学志向」の流れの中で、その存在意義において極めて深刻な議論を呼んでいる。議論の展開の中で、その将来像としては、高等教育への「ファーストステージ」機関としての、また「コミュニティ・カレッジ」としての位置づけが、短期大学関係者だけでなく政策サイドにおいても模索されている。

そのような状況の中、2002年度より発足した短期大学関係者を中心とする本研究グループ（代表、吉本圭一）は、卒業生の多様な実態を明らかにするための卒業生調査（分析結果の一部は、2004年の本学会において発表済み）を初めとする多くの取り組みにより、短期大学の抱える問題を把握・分析し、その課題を見出そうと努めている。特に、先の卒業生調査においては、短期大学の効用感に短期大学教育そのものが影響を与えてはいるものの、卒業後年数が経つに伴い、「職業」との関連でその効用感が低くなること（いわゆる「ガラスの天井」問題）や、同様に「私生活志向」が「キャリア志向」に変化していく傾向があることが明らかになった。

本発表においては、先の知見を踏まえつつ、特に卒業生の学習経験と初期キャリアの関連について分析・検討を進めることとしたい。具体的には、1)短期大学卒業直後と現在の状況からみる卒業生のキャリアの状況や変化と 2)卒業生の初期キャリアに影響を及ぼすと仮定される短期大学での学習・その他の生活経験を詳しく分析することにより、3)短期大学卒業生における両者（初期キャリアと学習経験）の関連性を明らかにしたい。

1-2. 調査の概要と分析軸

本発表に使用する卒業生調査（質問紙調査）の詳細は次の通りである。調査の実施時期は、2005(平成17)年6月～12月、分析対象は全国14短期大学（北海道1・関西2・中国四国2・九州10校／共学8・別学女子のみ6校）の卒業後2,4,8年目の卒業生12,161名であり、内2,835名(回収

率23.3%)サンプルのデータを用いた。なお、男女別では、女性が2,702名、男性が111名である。

なお、分析軸として、卒業生の出身学科を「人文教養」「工業」「家政」「教育」「芸術」の5分野に分類した専攻分野間、卒業後年次3分類のコーホート間の比較を行う。

2. 短期大学卒業生の初期キャリア

先の卒業生調査においては、「卒業生にとって、短期大学教育は、年月を経るに従い、長期的なキャリアへの有用性が減少する」ことから、「ガラスの天井」の存在が示唆された。

しかし、そのような短期大学が抱える深刻な問題を考察する際に、卒業生自身のキャリアの変化をできる限り正確に把握し分析することがより重要になろう。従って、本章においては、卒業直後の状況（進路）と現在の状況へのキャリアの変化に注目し、その詳細を明らかにしたい。また、卒業生の職業生活についてキャリア変化のパターンによりその問題を明らかにしたい。

2-1. 卒業直後の状況

まず、卒業生の卒業直後の状況を表2-1からみていく。

	学 科						卒業後の年数		
	人文教養	工業	家政	教育	芸術	2年目	4年目	8年目	
N	2835	614	196	948	929	91	900	916	1005
正規就業	61.4	58.6	55.6	62.1	65.8	40.7	52.7	60.8	69.8
非正規就業	23.7	21.0	20.9	23.5	26.2	29.7	28.1	26.1	17.6
就学	9.3	13.0	16.8	8.5	4.7	19.8	12.3	8.1	8.0
家事・子育て	0.6	0.2	1.0	0.6	0.6	1.1	0.4	0.8	0.5
求職・訓練	2.0	2.6	2.6	2.6	0.6	4.4	2.4	2.0	1.7
その他	1.8	2.8	1.5	1.9	1.0	3.3	2.3	1.4	1.7
無回答	1.2	1.8	1.5	0.6	1.1	1.1	1.7	0.9	0.8
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

全体として、フルタイムの正規就業者の占める比率は、60%を超えているが、パートや契約社員等の非正規就業者も約24%いる。一方、現在就業していない者も約20%存在する。

学科別では、正規就業者の割合は、教育系が約66%と最も高く、次いで家政系と続き、最も低いのは芸術系ある。非正規就業者の割合は、芸術系が最も高く約30%となっているが、それ以外の学科でも、すべて20%を超えている。卒業直後に進学をした者の比率は、芸術系が最も高く、次いで工業系、人文教養系と続いている。

卒業年数別では、卒業後8年目の正規就業者の比率は、約70%と最も高くなっているが、卒業後

2年目の者は、約半数しか正規就業に従事していない。一方、卒業直後からパートや契約社員等の非正規就業者は、卒業後2年目の者が最も高く約28%となり、8年目の者より10ポイントも高くなっている。ただ、卒業直後に進学した者の比率は、2年目の者が約12%で、4年目や8年目の者と比較して1.5倍の比率になっている。

2-2. 卒業直後から現在の状況への変化

それでは、卒業生は、卒業後どのようにキャリアを変化させているのだろうか。ここでは、卒業直後の状況と現在の状況を比較することにより、その変化をみている。(表2-2)

表2-2 卒業直後から現在の状況への変化 (%)

	卒業後の年数							
	2年目		4年目		8年目			
	直後	現在	直後	現在	直後	現在	直後	現在
N	2835		900		916		1005	
正規就業	61.4	52.3	52.7	51.3	60.8	56.9	69.8	49.1
非正規就業	23.7	25.3	28.1	27.6	26.1	25.7	17.6	22.8
就学	9.3	4.2	12.3	10.2	8.1	1.9	8.0	1.0
家事・子育て	0.6	11.3	0.4	3.2	0.8	7.8	0.5	21.5
求職・訓練	2.0	4.1	2.4	4.6	2.0	4.7	1.7	3.2
その他	1.8	0.6	2.3	0.6	1.4	0.4	1.7	0.8
無回答	1.2	2.3	1.7	2.6	0.9	2.7	0.8	1.7
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

まず、全体としては、現在でも約半数の者が正規就業者であるが、その比率は、卒業直後からは約10ポイント近く減少している。卒業後年数が経るごとにその減少率は大きくなっている。特に卒業後8年目の者は、20%も減少しているが、その一方で家事・子育てに従事する者が約20%増加している。やはり、女性が圧倒的に多い短期大学の卒業生にとって、30才前後のこの時期は子育てに最も時間と手間を取られる時期であろう。それに連動してか、非正規就業者も若干増加している。

2-3. キャリア変化のパターン

ここでは、卒業生のキャリアの変化について、各状況ごとに詳細にみていく。表2-3～表2-5は、現在の状況に至る卒業直後からのキャリア変化(移行)パターンの中から、特徴的なものを示した。

まず、卒業後2年目の者では、卒業直後から現在まで、正規の就業者は約40%にすぎないが、非正規から正規就業に移行した者が約6%いる。一方、正規から非正規就業に移行した者も約5%いる。求職・訓練中から正規就業に移行できたのは0.6%のみで、パートや契約社員等の非正規就業に移行した者は、1%程度存在する。

4年目の卒業生は、卒業直後約60%いた正規就業者のうち、そのまま正規就業を続けている者は約44%しかいない。非正規就業や就学中から移行した者がそれぞれ約7.5%と4.5%いる。

表2-3 (2年目) (%)

	現在=正規	現在=非正規
正規→正規	42.7	正規→非正規 5.4
非正規→	6.2	非正規→ 18.9
就学→	1.2	就学→ 0.7
家事・子育て→	0.0	家事・子育て→ 0.0
求職・訓練→	0.6	求職・訓練→ 1.1
その他→	0.3	その他→ 0.7
無回答→	0.3	無回答→ 0.8
	51.3	27.6

表2-4 (4年目) (%)

	現在=正規	現在=非正規
正規→正規	43.6	正規→非正規 8.1
非正規→	7.6	非正規→ 14.1
就学→	4.5	就学→ 2.0
家事・子育て→	0.0	家事・子育て→ 0.2
求職・訓練→	0.3	求職・訓練→ 1.0
その他→	0.5	その他→ 0.2
無回答→	0.3	無回答→ 0.1
	56.9	25.7

表2-5 (8年目) (%)

	現在=正規	現在=非正規	現在=家事子育て
正規→正規	37.6	正規→非正規 11.5	正規→家事子育て 16.0
非正規→	5.2	非正規→ 7.6	非正規→ 4.0
就学→	4.7	就学→ 2.3	就学→ 0.8
家事・子育て→	0.1	家事・子育て→ 0.1	家事・子育て→ 0.2
求職・訓練→	0.7	求職・訓練→ 0.6	求職・訓練→ 0.1
その他→	0.6	その他→ 0.5	その他→ 0.3
無回答→	0.2	無回答→ 0.2	無回答→ 0.1
	49.1	22.8	21.5

8年目の卒業生になると、卒業直後に約70%を占めていた正規就業者の中で、そのまま正規で就業している者は、約38%にすぎない。正規就業から非正規就業に移行した者が約12%いるが、家事・子育てに移行した者が16%に上っている。

2-4. キャリア変化からみる卒業生の職業問題

最後に、上記の卒業生のキャリア変化の分析を基に職業キャリアに関する変数を作成し、それとの関連で、短期大学卒業生の職業に関する問題を考察した。具体的には、「正規→正規(継続)」「正規→正規(転職)」をからませたキャリア変化のパターンを軸に分析を進めた。

その結果、収入では、「正規(継続)型」が最も高く、次いで「正規(転職)型」が続くが、「非正規→正規型」と「求職・訓練→正規型」は、上記2つの型に比較すると低くなっている。

次に、現在の仕事にふさわしい学歴については、短大程度と答えた比率は、「正規(転職)型」が最も高くなっている。一方、高校・専門学校程度と答えた比率は、「求職・訓練→正規型」で仕事と学歴のミスマッチがみられた。(なお、詳細については当日配布資料により説明する。)

3. 短大卒業生の学習経験

3-1. 短大選択理由

短大を選んだ理由では「学びたい分野があったから」と「資格・検定の取得のため」が半数を超える。また、3人に1人は「自宅(親元)から通えるから」という理由をあげているが、四年制大学に較べると、地元からの進学者が多い短大の特徴を反映している。「資格・検定の取得」や「就職に有利」の選択率は、学科分野による差が大きい。

また、6年間で「資格・検定の取得」は14.6%、「高校教諭の勸め」6.5%、「大学編入制度」5.7%増加し、「自分の学力に合う」は7.4%減少している。学力選抜試験以外の方法で入学してくる学生や、資格取得や大学編入という目的で短大を選択する学生が近年多くなったことを反映している(表3-1)。

表3-1

	全体	人文教養	工業	家政	教育	芸術	2年目	4年目	8年目
1. 本学に学びたい分野があったから	58.6	64.5	57.1	68.9	72.6	82.4	71.3	68.7	66.2
2. 学びたい資格・検定の取得のため	55.1	24.1	24.5	58.5	82.2	25.3	61.2	98.3	46.6
3. 自宅(親元)から通えるから	32.6	30.9	36.7	27.5	36.2	47.3	34.3	34.4	29.3
4. 就職に有利と思ったから	23.7	29.3	28.1	18.4	24.0	4.4	23.3	24.6	21.6
5. 自分の学力に合っていたから	18.4	22.1	13.3	16.5	19.5	15.4	15.6	16.3	22.0
6. 高校の先生に勧められたから	18.0	25.2	16.8	16.1	16.1	17.6	21.4	18.1	14.9
7. 希望の大学・短大・専門学校等に入学できなかったから	14.6	19.4	19.9	13.4	11.2	15.4	15.1	11.0	17.4
8. 学校の場所や施設などが良かったから	12.3	13.8	23.0	9.9	11.1	14.3	11.7	12.4	11.7
9. 親や友達に勧められたから	10.5	19.1	46.4	10.3	9.5	4.4	12.9	9.9	8.9
10. 校舎や建学の精神が好きだったから	7.1	17.1	2.0	3.7	5.6	2.2	6.7	7.0	7.6
11. 大学への編入制度があったから	6.1	12.2	17.9	3.8	2.5	1.1	8.9	6.4	3.2
12. 経済的理由から	6.0	6.7	5.6	5.9	4.4	17.6	7.1	5.8	5.1
13. 基準での就職がなかったから	2.0	1.5	6.1	2.7	0.8	1.1	1.8	2.2	2.1
14. その他	5.1	6.7	3.5	4.4	4.6	9.9	4.1	4.6	6.4

調査対象者の55.2%が「短大以外の進学先を考えた」ことがあり、最終的に短大進学を決めた理由は「希望していた学校に進学できなかった」が最も多い。しかし、この理由は6年間で1割減少している。人文教養や工業の分野では「大学への編入制度」、家政と教育の実学性の高い学科では「資格・検定の取得」の選択割合が他の分野に較べて高い。卒年次別では、「四年制大学より早く社会に出られる」という理由が、8年目に較べて2年目の卒業生では11.4%増加している。また、同じく「大学編入制度があったから」も7.2%増加している。2年目で社会に出たいという人と、さらに学びを継続したいという人が増えたことは、短大卒業後の職業キャリア形成過程の多様化を示している(表3-2)

表3-2 最終的に短大進学を決めた理由

	全体	人文教養	工業	家政	教育	芸術	2年目	4年目	8年目
1. 希望していた学校に進学できなかったから	28.1	30.0	30.2	25.9	26.8	37.3	25.3	23.0	35.6
2. 資格取得や検定を願ったから	25.1	13.6	14.0	28.4	30.0	7.8	24.4	28.1	22.1
3. 自宅(親元)から通えるから	20.2	22.3	17.1	18.1	23.5	2.0	18.2	18.1	22.6
4. 就職に有利と思ったから	19.2	20.5	19.4	17.9	20.5	11.8	24.6	20.6	13.2
5. 希望の大学・短大・専門学校等に入学できなかったから	18.3	16.8	13.2	18.7	18.5	43.1	18.6	20.4	15.6
6. 学校の場所や施設などが良かったから	14.7	10.4	14.7	22.2	10.4	7.8	15.4	16.3	12.8
7. 親や友達に勧められたから	10.2	5.2	7.6	9.1	15.2	27.5	12.9	10.0	7.8
8. 大学への編入制度があったから	8.1	13.9	13.2	5.8	5.1	0.0	11.7	8.6	4.5
9. その他	12.0	19.1	5.4	10.3	9.1	13.7	12.1	10.6	13.2

3-2. 短大時代の活動

芸術以外の分野の卒業生は「友達との交際」への関心が最も高く、工業、家政、教育の分野では短大時代に一番力を入れた活動である。「授業に関する勉強」も「友達との交際」と同じぐらい、力を注いだ活動であり、芸術と人文教養では、4点を超えている。また、教育系では他の分野に較べて一番力を注いだ活動に「学外での就業体験」と「サークルクラブ」を選択する者が多いので「学校の授業に関係する勉強」を選択する割合が、最も低かった。なお、全体的には、授業以外の勉強や、サークル・クラブ・ボランティア活動等の学生としての活動よりも「趣味」や「アルバイト」といった非学制的活動に対する関心が高い傾向にある。

また、卒年次別では、新しい卒年次の者が、「学外での就業体験」活動に対する評価が高い。ほとんどの項目で卒年次の新しい者が、前の者よりも評価値が高いが、この理由として、年月の経過は、自らの学生時代の評価を厳しくする傾向があること、また一方、近年の学生の方が、勉学にも学生活動にも個人生活にも8年前の学生よりも力を注いでいる、この2つの可能性が考えられる。

表3-3 短大時代の活動

	全体	人文教養	工業	家政	教育	芸術	2年目	4年目	8年目
友達との交際	4.10	4.11	3.95	4.07	4.17	3.96	4.18	4.05	4.07
学校の授業に関係する勉強	3.81	4.03	3.54	3.73	3.77	4.10	3.84	3.83	3.75
趣味	3.34	3.30	3.42	3.20	3.29	3.46	3.51	3.38	3.15
アルバイト	3.05	3.25	3.15	2.97	2.93	3.27	3.01	3.05	3.07
学外での就業体験	2.62	2.70	2.43	2.56	2.65	2.94	2.83	2.64	2.43
学校の授業以外の勉強	1.5	1.8	2.6	1.2	1.0	5.7	2.5	1.1	0.9
サークルやクラブ	2.10	2.05	2.09	1.92	2.35	1.55	2.21	2.12	1.87
ボランティア活動	2.00	1.81	1.63	1.85	2.37	1.74	2.23	2.10	1.72

上段:5段階評価の平均値 下段:最も力を入れたとする人の割合

次に「授業に関する勉強」と、その他の活動の関係について見ていく。

表3-4は授業に関する勉強に力を注いだグループ(H)と、注がなかったグループ(L)別に、「学外就業体験」「授業以外の勉強」「アルバイト」の活動状況の割合を示したものである。授業の勉強に熱心でない者の6割は、学外での就業体験への参加が低調であるし、8割近くは、授業以外の勉強にもあまり取り組んでいない。それに反して、アルバイト活動には6割が力を注いでいる。

一方、授業関連の勉強に熱心な者は、アルバイトに熱心な者とそうでない者に二分される。また、授業には熱心でも授業以外の勉強には関心の低い者の方が多い。短大で与えられる学習課題はまじめにこなすものの、自ら学ぶ姿勢を醸成するには至っていない。卒業生の6割近くは授業の勉強には熱心に取り組んだとの自己評価をしているが、その実態はどのようなものであろうか。

表3-4

	(N)	学外での就業体験		授業以外での勉強		アルバイト		
		H	L	H	L	H	L	
		全体	2797	770	521	362	621	694
授業に関する勉強	H	1641	47.8	33.6	25.2	34.8	39.9	37.2
	L	300	23.8	60.5	9.7	77.1	57.2	19.3

H=(5非常に力を注いでいた&4.力を注いでいた)
L=(1.まったく力を注いでいなかった&2.力を注いでいなかった)

3-3. 短大時代の生活時間

授業期間中と長期休暇中の平均的な1週間の生活時間から、彼らの短大生活の具体的内容をみていく。「授業への出席時間」は、7割が30時間以上で、4人に1人は週40時間以上授業に出席している。家政・教育系は長時間、それに比べて人文教養・工業・芸術は短めであり、学科分野の教育課程の特徴が反映されている。

また、長期休暇中の平均的な週で、インターンシップや実習など短大が提供する学習時間が10時間以上あった者の割合は4分の1に近い(図略)。しかしながら、授業期間中にも係わらず「自学自習」の時間が、まったく無い5.6%、5時間以下43.5%と、1日平均1時間も勉強しない者が半数である。その一方、4分の1は毎日2~3時間の勉強時間を確保しており、特に学科間の差が著しい。長期休業中の自学自習時間は、授業期間中より少なくなり、まったくしない者が1割を超えている。「アルバイト」については、授業期間・長期休業中共に、3割の卒業生はアルバイトを経験していないが、長期休業中は、週30時間以上のアルバイトを経験した者も3割、15%は週40時間以上のアルバイトに励んでいる(図1 図2)。

学科分野間で違いはあるものの、授業や休暇中の学内外での学習といった短大が提供する教育にはまじめに参加するが、時間が空くと、勉強よりもアルバイトに励むという短期大学の平均的學生像が浮かび上がる。

図1 自学自習時間(左:授業期間中 右:休暇中)

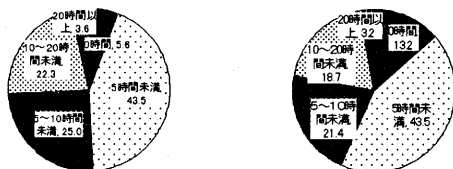
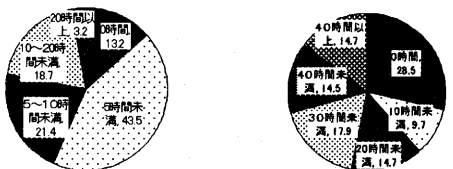


図2 アルバイト時間(左:授業期間中 右:休暇中)



3-4. 短大教育内容への評価

短大での教育内容が、期待通りのものであったかどうかについてみていく。期待通りであった(5段階評価4or5を選択)は58.6%、「期待はずれであった(同1or2を選択)」は、10.8%である。学科分野間でのばらつきがあり、人文教養と教育の評価が高いが、芸術の評価は低い。卒年次別の差はほとんど見られない。

表3-5

	全体	人文教養	工業	家政	教育	芸術	2年目	4年目	8年目
		2803	605	195	937	920	91	890	902
期待通り	58.6	64.0	50.3	49.3	68.5	45.1	57.6	61.7	57.0
	1644	387	98	462	630	41	513	558	589
期待はずれ	10.8	9.5	15.9	14.1	6.1	20.9	10.7	9.4	12.1
	3021	57	31	132	58	191	85	85	121

次に、3-2で検討した「短大時代どのような活動に力を入れたか」の項目との関連(表3-6)と、「短大の教育条件に対する満足度」との関連(表3-7)について示す。

期待通り・期待はずれ、この2グループが、各々短大時代にどのような活動に力を入れたか(いなかったか)、その違いをみていくと、期待通り群は、期待はずれ群に較べて、授業の勉強、学外での就業体験に力を入れた(H)割合が特に高い(差=21.6%と14.2%)。また、期待はずれ群は、授業の勉強には、半数が力を入れたとするものの、学外就業体験・サークルクラブ・ボランティアといった学生としての活動への参加度は低く、逆に、アルバイトや趣味といった学校外の活動に力を入れている傾向にある。

教育条件に対する満足度の平均値も、期待はずれ群は1ポイント以上低く、特に、進路相談や教員と授業以外で接触する機会に対する不満など、学生への個別対応の不備に対する不満が大きい。

表3-6

	授業の勉強		授業以外での勉強		学外での就業体験		サークル・クラブ		
	H	L	H	L	H	L	H	L	
(N)	2797	1786	147	532	1179	1139	990	549	1844
期待通り(1784)	67.6	2.4	20.3	34.8	43.2	29.2	20.2	58.8	
期待はずれ(300)	46.0	14.7	14.3	50.0	29.0	46.7	13.0	72.0	

	ボランティア活動		友達との交際		アルバイト		趣味		
	H	L	H	L	H	L	H	L	
(N)	2797	329	1910	2076	105	1204	938	1158	495
期待通り(1784)	12.2	58.7	71.7	2.9	38.9	31.4	38.6	14.5	
期待はずれ(300)	8.0	79.3	65.7	6.7	48.7	29.3	41.0	19.3	

表3-7

	a.選択できる授業の多様性		b.カリキュラムの体系的なまとまり		c.卒業論文の位置づけ		d.量かな教育を受ける機会		e.専門的知識や技術の身につける機会		f.実践で役立てられる授業	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
期待通り	3.44	0.897	3.50	0.836	3.44	1.017	3.32	0.919	3.50	0.954	3.72	1.008
期待はずれ	2.69	0.897	2.76	0.836	2.71	1.017	2.77	0.919	2.80	0.954	2.98	1.008
差	1.05	1.03	1.03	1.02	0.81	0.99	1.04	1.05				

	g.授業方法に工夫がある授業が多い		h.学生から質問する機会が多い		i.就職・進路指導の体制が整っている		j.遠路やPCなどでの学習環境		k.図書館・Lなど教員と接する機会		l.学生同士や教員との交流の機会	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
期待通り	3.25	0.834	3.05	0.952	3.39	1.107	3.27	1.198	3.54	1.077	3.46	1.025
期待はずれ	2.51	0.834	2.36	0.952	2.57	1.107	2.33	1.198	2.88	1.077	2.58	1.025
差	1.04	0.96	0.96	1.17	1.34	0.94	1.22	1.00				

4. 在学中の活動の重視と各キャリア項目の関連

4-1 キャリアの変化との比較

表 4-1 に在学中の各活動の重視とキャリアの変化の比較を示す。

在学中の各活動の重視状況とキャリアの変化の関連では、まず、正規→正規のキャリアをたどった群は、人文教養、芸術系において学業因子を重視した傾向が高いが、工業、家政、教育では、必ずしも学業を重視していたわけではない。教育では、むしろ正規→非正規の方が、学業を重視した傾向が高い。ただ、卒業直後に非正規だった群よりは、正規の群の方が、学業を重視している。2つ目の学生生活動因子とキャリアの変化の関係に際だった特徴は見られない。3つ目の私生活因子の重視度は、工業系をのぞき、現在、正規である群の方が高い傾向にある。また、就学→正規の群は、どの学科でも学業の重視度が高い。

4-2 収入分類との比較

表 4-2 に在学中の活動の重視と収入分類の比較を示す。

在学中の活動は現在の収入とどんな関係があ

るのだろうか。着目したいのは、10万円未満の低収入群である。家政を除く、人文教養、工業、教育、芸術系の低収入群では、学業を重視したと考える者が多い。学校の勉強に力を注いだにも関わらず、収入に結びつかない層が存在していることが分かる。その一方で、約 25 万円以上の高収入群を見ると、必ずしも学業を重視したわけではなさそうである。つまり、生活基盤である収入と学校の勉強を頑張ったかどうかはあまり関係がないということだろうか。さらに高い収入を得ている群は、集団行動を涵養する学生生活動因子にもコミットしていない。むしろ、工業、家政、教育系などでは、私生活因子の重視との関連がうかがわれる。

4-3 学歴のふさわしさとの比較

では、在学中の各活動の重視度と、卒業直後、及び現在の職業の学歴のふさわしさ（適合度）の関係はどうなっているだろうか。

まず、卒業直後の職業について見ていく。どの学科も、学歴をふさわしいと考える高適合群の方が、学歴をふさわしくないと考える低適合群より、学業因子の重視度は高い。しかし、学科により違いがあり、工業系では学業因子を重

表 4-1 在学中の活動の重視とキャリアの変化の比較（単位：％）

学科	キャリア変化	n	学業		学生生活動		私生活	
			重視	非重視	重視	非重視	重視	非重視
人文教養	A: 正規→正規	(226)	58.4	41.6	29.2	70.8	56.2	43.8
	B: 正規→非正規	(52)	59.6	40.4	30.8	69.2	44.2	55.8
	C: 非正規→正規	(30)	50.0	50.0	30.0	70.0	60.0	40.0
	D: 非正規→非正規	(78)	42.3	57.7	44.9	55.1	44.9	55.1
	E: 就学→正規	(28)	60.7	39.3	32.1	67.9	64.3	35.7
工業	A: 正規→正規	(74)	37.8	62.2	32.4	67.6	44.6	55.4
	B: 正規→非正規	(15)	20.0	80.0	26.7	73.3	40.0	60.0
	C: 非正規→正規	(8)	37.5	62.5	25.0	75.0	50.0	50.0
	D: 非正規→非正規	(21)	47.6	52.4	33.3	66.7	42.9	57.1
	E: 就学→正規	(9)	66.7	33.3	33.3	66.7	44.4	55.6
家政	A: 正規→正規	(358)	49.2	50.8	41.1	58.9	48.0	52.0
	B: 正規→非正規	(70)	44.3	55.7	41.4	58.6	48.6	51.4
	C: 非正規→正規	(62)	50.0	50.0	43.5	56.5	51.6	48.4
	D: 非正規→非正規	(108)	50.0	50.0	36.1	63.9	51.9	48.1
	E: 就学→正規	(36)	75.0	25.0	44.4	55.6	61.1	38.9
教育	A: 正規→正規	(410)	50.7	49.3	63.9	36.1	51.7	48.3
	B: 正規→非正規	(82)	61.0	39.0	63.4	36.6	46.3	53.7
	C: 非正規→正規	(65)	43.1	56.9	63.1	36.9	50.8	49.2
	D: 非正規→非正規	(132)	46.2	53.8	65.2	34.8	42.4	57.6
	E: 就学→正規	(18)	66.7	33.3	77.8	22.2	38.9	61.1
芸術	A: 正規→正規	(27)	66.7	33.3	33.3	66.7	63.0	37.0
	B: 正規→非正規	(5)	60.0	40.0	40.0	60.0	20.0	80.0
	C: 非正規→正規	(4)	100.0	0.0	25.0	75.0	75.0	25.0
	D: 非正規→非正規	(20)	45.0	55.0	25.0	75.0	55.0	45.0
	E: 就学→正規	(3)	100.0	0.0	0.0	100.0	33.3	66.7

表 4-2 在学中の活動の重視と収入分類の比較 (単位: %)

学科	収入分類	n	学業		学生活動		私生活	
			重視	非重視	重視	非重視	重視	非重視
人文教養	約25万円以上	(49)	53.1	46.9	14.3	85.7	49.0	51.0
	17.5万円及び20万円	(189)	56.6	43.4	32.8	67.2	53.4	46.6
	15万円	(123)	55.3	44.7	37.4	62.6	56.1	43.9
	10万円及び12.5万円	(143)	46.9	53.1	34.3	65.7	55.9	44.1
	10万円未満	(17)	82.4	17.6	29.4	70.6	35.3	64.7
工業	約25万円以上	(10)	50.0	50.0	40.0	60.0	60.0	40.0
	17.5万円及び20万円	(50)	30.0	70.0	34.0	66.0	50.0	50.0
	15万円	(45)	42.2	57.8	37.8	62.2	33.3	66.7
	10万円及び12.5万円	(46)	32.6	67.4	30.4	69.6	50.0	50.0
	10万円未満	(3)	66.7	33.3	33.3	66.7	66.7	33.3
家政	約25万円以上	(16)	37.5	62.5	25.0	75.0	62.5	37.5
	17.5万円及び20万円	(185)	54.1	45.9	42.7	57.3	50.3	49.7
	15万円	(268)	46.3	53.7	35.8	64.2	51.9	48.1
	10万円及び12.5万円	(287)	51.2	48.8	43.6	56.4	45.3	54.7
	10万円未満	(45)	35.6	64.4	33.3	66.7	31.1	68.9
教育	約25万円以上	(9)	44.4	55.6	44.4	55.6	55.6	44.4
	17.5万円及び20万円	(195)	56.4	43.6	58.5	41.5	47.2	52.8
	15万円	(305)	48.5	51.5	66.9	33.1	51.5	48.5
	10万円及び12.5万円	(300)	47.0	53.0	66.3	33.7	48.0	52.0
	10万円未満	(19)	57.9	42.1	68.4	31.6	36.8	63.2
芸術	約25万円以上	(2)	50.0	50.0	0.0	100.0	0.0	100.0
	17.5万円及び20万円	(22)	63.6	36.4	36.4	63.6	77.3	22.7
	15万円	(21)	57.1	42.9	28.6	71.4	52.4	47.6
	10万円及び12.5万円	(25)	64.0	36.0	12.0	88.0	56.0	44.0
	10万円未満	(8)	75.0	25.0	37.5	62.5	50.0	50.0

視する割合は約4割に過ぎず、芸術系では約8割に達する。また、学生活動因子は学歴適合の差にあまり大きな違いは見られない。私生活因子は、芸術系を除く学科で、学歴高適合群の方が、重視度が高い。それぞれ5割以上である。

現在の職業について見ると、学業因子、学生活動因子の重視度は、卒業直後と同様の傾向である。私生活因子の重視度では、芸術系でも、学歴高適合群の方が、重視度が高くなっている。

5. まとめ

本研究においては、卒業生の短期大学での学習や生活経験と初期キャリアの関連について分析・検討を進めたが、そこで明らかになったことをについて簡単に述べたい。

まず、卒業直後から現在までの卒業生のキャリア変化のパターンについて、主に就業状況を中心に分析した。それによると、現在の就業状況が「正規」であっても、卒業直後からのキャリアの変化をみると多様なパターンが存在する。そのキャリアパターンの違いにより、卒業生自身の職業に関する問題や意識に差がみられる。

短期大学での学習や生活経験について述べる。まず、授業に関する勉強に力を注いだ層とそ

うでない層に分類し比較すると、後者は、実習等の「学外就業体験」だけでなく、授業以外の勉強にもあまり熱心に取り組んでいない。

次に短期大学での教育内容に対して「期待通り」と「期待はずれ」群に分類し分析したが、前者は、「授業の勉強」や「学外での就業体験」に力を注ぎ、後者は、アルバイト等の「学校外の活動」に熱心な傾向がみられた。

最後に、短期大学での学習や生活経験と初期キャリアの関連について分析した。

まず、「正規→正規」就業というキャリアを辿った者は、人文教養系と芸術系において、「学業を重視」する傾向が高く、全体的にも、卒業直後の就業状況が「非正規」の者より、「正規」の者の方が、在学中に「学業を重視」していた。

在学中の活動と現在の収入の関連については、ほとんどの学科で、低収入層がむしろ「学業を重視」していたという結果がでたが、これについては、今後慎重に分析する必要がある。

さらに、在学中の活動と卒業直後と現在の職業の学歴の適合度の関連については、やはり、適合度の高い層が、低い層より「学業を重視」していたが、「学生活動」については、明らかな差は見いだせなかった。